新型コロナ、地球の健康、私たちの未来

2022年3月11日

NGO　シェア＝ 国際保健協力市民の会、
福島県医師

本田　徹

SHARE
すべての人に健康を！[NGOシェア] share.or.jp

Planetary Health

(Richard Horton: Lancet, March8, 2014)

近年の地球温暖化や環境破壊、それらも誘因となって発生したと思われるCovid-19のパンデミック、そしてヨーロッパでの新たな戦争は、人間のいのちと健康をそこない、大きな悲嘆を生み、生物の多様性を失わせ、「地球の健康」と持続可能性をうばっている。

写真提供：NASA

ウクライナ戦争と原発攻撃

東京朝刊 2022/03/05(土)

原発が戦場 世界激震

史上初 稼働中に砲撃

ロシアによる軍事侵攻が続くウクライナで、今度は原発を舞台にした交戦という前代未聞の出来事があった。一体何が起きているのか。

クローズアップ

「安全巡る根本揺らぐ」

暗闇の中を激しい閃光が飛び交い、煙が立ち上った――。攻撃を受けたウクライナ南東部のザポロジエ原発。敷地内の監視カメラが捉えた映像は、インターネットなどを通じて世界に広まった。稼働中の原発への軍事侵攻は過去に例がない。国際社会に大きな衝撃を与えた。

AFP通信は、ウクライナ軍関係者の話として、火災が起きたのは敷地内の研修施設と研究所だと報じた。ウクライナ政府は国際原子力機関（IAEA）に対し、攻撃を受ける前後の放射線量に大きな変化は見られず、火災による「重要な設備」への影響はないと報告した。ウクライナの原子力規制当局は、同原発がロシア軍に制圧されたことを認めた。

出力100万キロワットの原子炉を6基擁するザポロジエ原発は、総出力で欧州最大規模の原発だ。このうち1～5号機は旧ソ連時代の1985年から89年にかけて営業運転を開始した。攻撃時には、検査などのため1基のみが運転中だった。

ウクライナ政府は、クリミア半島から進撃する南部戦線のロシア軍が、同原発の制圧を目指しているとして危機感を強めていた。2月には原発の職員や周辺住民ら数百人が、原発に通じる道路を封鎖するバリケードを築いて侵攻に備えた。しかし、ロシア軍はこれを破って敷地に侵攻したとされる。

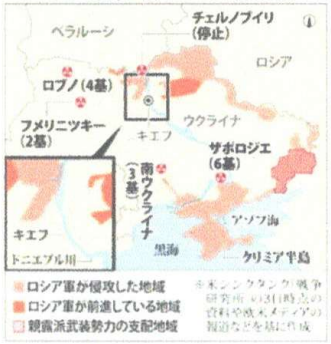
原発への軍事攻撃は、ロシアも批准するジュネーブ条約で禁じられている。原子力の平和利用を目的にしたIAEA憲章にも反する。

検問題に詳しい長崎大の鈴木達治郎教授は、「明確な国際法違反であり、ロシア軍は直ちに攻撃をやめるべきだ。システムの故障や電源喪失が起きれば、破滅的な過酷事故につながりかねない。これが許されるならば、世界中の原発が攻撃されることになり、原子力安全を巡る根本が揺らぐ」と危惧する。

ウクライナのクレバ外相は4日、ツイッターで「もし爆発すれば、チェルノブイリ（原発事故）の10倍以上になる」と危機感をあらわにした。福島大環境放射能研究所の難波謙二所長は、この見方を「決して的外れではない」と指摘する。「（事故が起きれば）放射

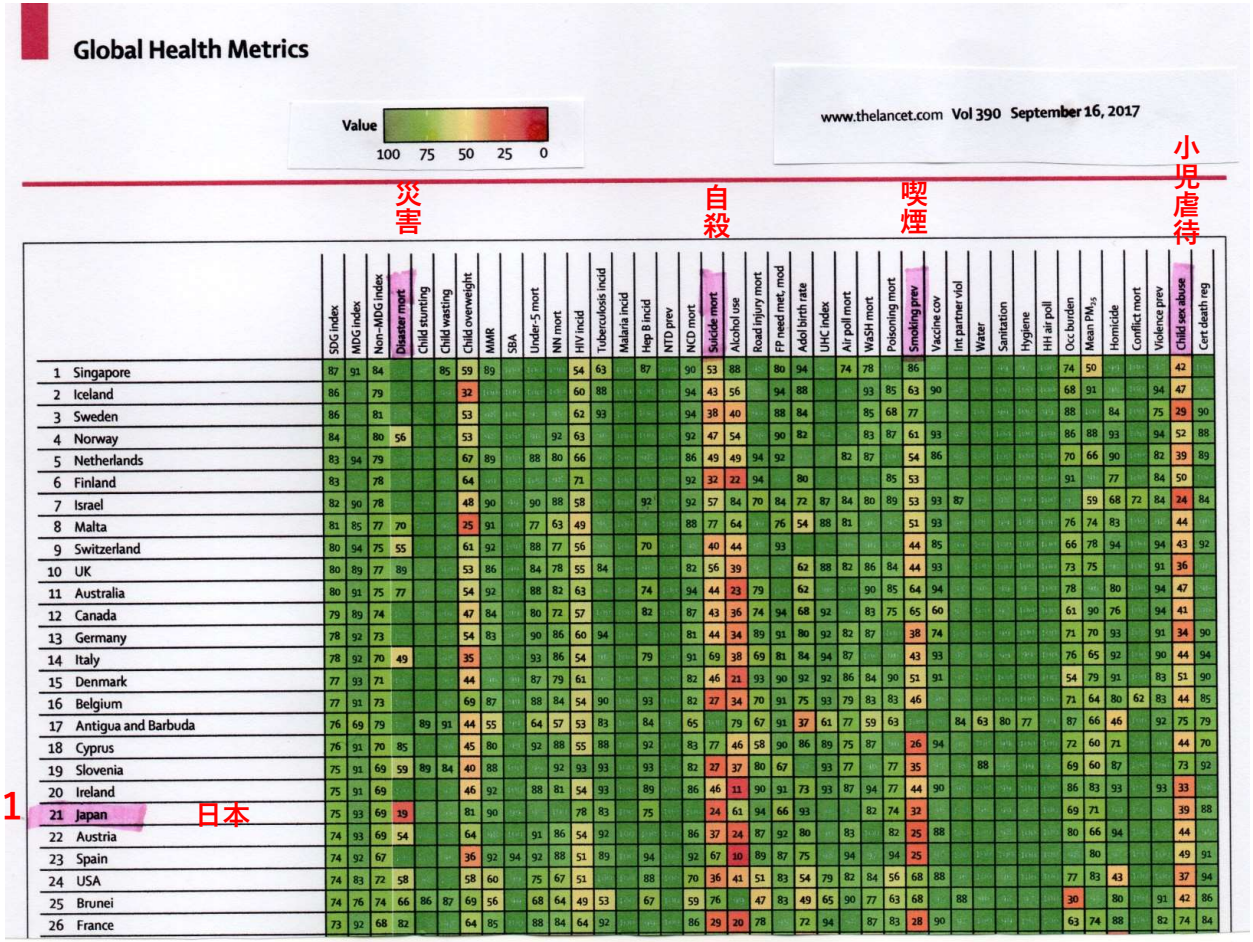
攻撃を受け火災が起きたザポロジエ原発の監視カメラの映像＝4日、ロイター

ウクライナの原発（☢）とロシア軍の侵攻状況



※米シンクタンク「戦争研究所」の3日時点の資料や欧米メディアの報道などを基に作成

SDGsで日本が抱える4つの課題

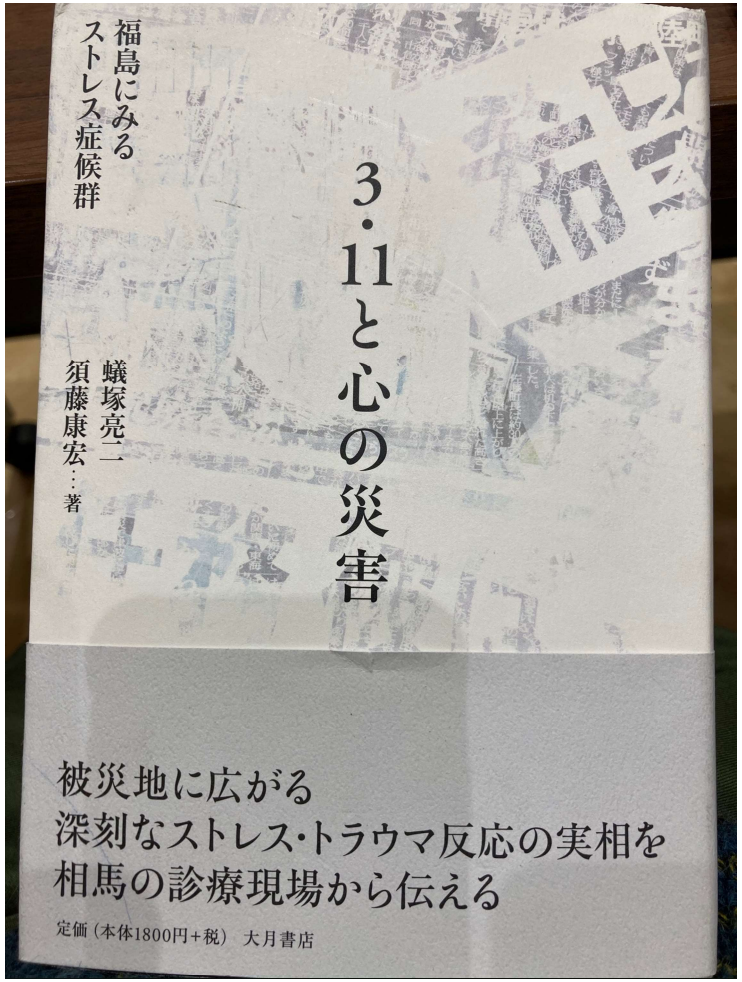


		SDG index	MDG index	Non-MDG index	Disaster mort	Child stunting	Child wasting	Child overweight	MMR	SBA	Under-5 mort	NN mort	HIV incid	Tuberculosis incid	Malaria incid	Hep B incid	NTD prev	NCD mort	Suicide mort	Alcohol use	Road injury mort	FP need met, mod	Adol birth rate	UHC index	Air poll mort	WaSH mort	Poisoning mort	Smoking prev	Vaccine cov	Int partner viol	Water	Sanitation	Hygiene	HH air poll	Occ burden	Mean $PM_{2.5}$	Homicide	Conflict mort	Violence prev	Child sex abuse	Cert death reg
1	Singapore	87	91	84			85	59	89				54	63		87		90	53	88		80	94		74	78		86							74	50				42	
2	Iceland	86		79				32					60	88				94	43	56		94	88			93	85	63	90						68	91			94	47	
3	Sweden	86		81				53					62	93				94	38	40		88	84			85	68	77							88		84		75	29	90
4	Norway	84		80	56			53				92	63					92	47	54		90	82			83	87	61	93						86	88	93		94	52	88
5	Netherlands	83	94	79				67	89		88	80	66					86	49	49	94	92			82	87		54	86						70	66	90		82	39	89
6	Finland	83		78				64					71					92	32	22	94		80				85	53							91		77		84	50	
7	Israel	82	90	78				48	90		90	88	58			92		92	57	84	70	84	72	87	84	80	89	53	93	87						59	68	72	84	24	84
8	Malta	81	85	77	70			25	91		77	63	49					88	77	64		76	54	88	81			51	93						76	74	83			44	
9	Switzerland	80	94	75	55			61	92		88	77	56			70			40	44		93						44	85						66	78	94		94	43	92
10	UK	80	89	77	89			53	86		84	78	55	84				82	56	39			62	88	82	86	84	44	93						73	75			91	36	
11	Australia	80	91	75	77			54	92		88	82	63			74		94	44	23	79		62			90	85	64	94						78		80		94	47	
12	Canada	79	89	74				47	84		80	72	57			82		87	43	36	74	94	68	92		83	75	65	60						61	90	76		94	41	
13	Germany	78	92	73				54	83		90	86	60	94				81	44	34	89	91	80	92	82	87		38	74						71	70	93		91	34	90
14	Italy	78	92	70	49			35			93	86	54			79		91	69	38	69	81	84	94	87			43	93						76	65	92		90	44	94
15	Denmark	77	93	71				44			87	79	61					82	46	21	93	90	92	92	86	84	90	51	91						54	79	91		83	51	90
16	Belgium	77	91	73				69	87		88	84	54	90		93		82	27	34	70	91	75	93	79	83	83	46							71	64	80	62	83	44	85
17	Antigua and Barbuda	76	69	79		89	91	44	55		64	57	53	83		84		65		79	67	91	37	61	77	59	63			84	63	80	77		87	66	46		92	75	79
18	Cyprus	76	91	70	85			45	80		92	88	55	88		92		83	77	46	58	90	86	89	75	87		26	94						72	60	71			44	70
19	Slovenia	75	91	69	59	89	84	40	88			92	93	93		93		82	27	37	80	67		93	77		77	35			88				69	60	87			73	92
20	Ireland	75	91	69				46	92		88	81	54	93		89		86	46	11	90	91	73	93	87	94	77	44	90						86	83	93		93	33	
21	Japan	75	93	69	19			81	90				78	83		75			24	61	94	66	93			82	74	32							69	71				39	88
22	Austria	74	93	69	54			64			91	86	54	92				86	37	24	87	92	80		83		82	25	88						80	66	94			44	
23	Spain	74	92	67				36	92	94	92	88	51	89		94		92	67	10	89	87	75		94		94	25								80			49	91
24	USA	74	83	72	58			58	60		75	67	51			88		70	36	41	51	83	54	79	82	84	56	68	88						77	83	43			37	94
25	Brunei	74	76	74	66	86	87	69	56		68	64	49	53		67		59	76		47	83	49	65	90	77	63	68		88					30		80		91	42	86
26	France	73	92	68	82			64	85		88	84	64	92				86	29	20	78		72	94		87	83	28	90						63	74	88		82	74	84

OECD加盟国の中でも相対的に低い21位

その原因のうち主要なものは、
1）災害（原発事故、地震、火山噴火など）への脆弱性
2）高い自殺率
3）高い喫煙率
4）子どもの（性的）虐待・貧困

出典：　Lancet SDGs and Global Burden of Disease Study Sep. 16, 2017; 390: 1423–59



3.11　と　心　の　災　害

蟻塚亮二　医師
須藤康宏　精神保健福祉士

●原発の是非とゲマインシャフト

原発という高度に政治的で意見の分かれる価値を、ゲマインシャフトという自然発生的な社会に持ち込むことは無理なことではなかったのか。ゲマインシャフトとは高度に政治的な判断と正反対の社会だから、そこに原発の是非を問うならば、そもそもの地域が壊れてしまう。

●危機を契機に信頼を強めた家族

「トラウマ後成長」（PTG：Post-traumatic Growth）は個人レベルの成長であり、「震災後の家族の成長」は集団レベルの成長である。

楢葉町宝鏡寺
早川篤雄和尚のこと

地蔵さまと非核の種火と

ほんだ・とおる

今日は運命の「3.11」の十周年の日
あちこちのおおきなかしこまった式とは別に
ここ双葉郡楢葉町の山寺では
六百五十年の大事な節目となる営みが
小さくだが質実にとり行われた。

数奇なつながりで昭和二十年八月
広島で採火された「核の火」がもち伝えられ
今日この地に灯される
核兵器の非道と原発事故の非道は
一つの火で今つながった。

ちょうどガンジーのアシュラムのように
諸宗教の祈りが上げられ
早川師と安斎教授による「原発悔恨・伝言の碑」の除幕があり
お二人の言葉は抜ける青空とそよぐ若竹の緑に吸われ
午後二時四十六分の大地震発生・津波警告のサイレンとともに
天まで届いた。

積年の風雨に耐えてきたやさしい地蔵さまたちも
苔の下に微笑を浮かべじっと聴き入り
嘉（よみ）しておられる如くだった。

(2021. 3. 11)

不確定の未来、模索の続く医療と介護

―福島・双葉郡からの報告

本田　徹

雑誌「飢餓陣営」
第53号（2021年夏）

1．はじめに

二〇二〇年全米図書賞を得た柳美里の「JR上野駅公園口」は、相馬出身の出稼ぎ者カズの不運な人生を、モノローグ、フラッシュバック、俯瞰的視点、時系列を縦横に駆ける想起法などを多用しながら、鮮烈に描いている。著者の天皇制に対する韜晦したまなざしを基調に、息子、妻と死別し、その後、大震災・津波の連鎖でかわいがっていた孫娘も失い、都会に漂流する主人公の姿には、山谷で必死に生きてきた、私も個人的に知る、日雇いの労働者に重なるものがあり、胸が痛む。

福島に住み、働くようになるまでよく知らなかったことだが、診療圏にあたる双葉郡の富岡町、楢葉町、広野町出身のかなりの数の男性高齢者が、高度成長時代に、山谷などで季節労働者として働き続け、立派な家を家族のために建て、年老いて故郷に帰っていた。

台東区で診療をしてきたこれまでは、山谷という定点からだけおじさんたちの生活を見ていたが、彼らの多くは、さまざまな理由や事情で、出身地に戻れなくなり、孤老としての生を都会の片隅でひっそりと送る男たちだった。彼らはだいたいにおいて、家と財産を守る責任と権利を持たない、次男、三男たちだった。一方、双葉で私が医師として知り合うようになった何人かのご老人は、おしなべて長男であり、良くも悪しくも、家督を継ぎ、息子の世代に渡さねばならないという義務感の強固な、たとえば百姓と大工を兼業する人たちだった。大工という職業的専門性は、彼らが首都圏で建設業に就く際の、市場価値や誇りを高めたことであろう。

それから四～五十年が過ぎ、大震災、原発事故もあり、地域

1）私が山谷で会った、多く東北地方出身の日雇い労働者の試練と生活のためのたたかいは、柳美里の「JR上野駅公園口」や、いわきの詩人・草野比佐男の「村の女は眠れない」が描いた現実と接続していた。
2）皮肉なことに、福島原発が建設されることで、出稼ぎだけに頼らない暮しができる社会を生んだということも事実だが、震災によるメルトダウンがもたらした災禍は償い切れないものだ。
3）いま地域の医療も介護も持続可能性という意味で、厳しい状況に直面している。
4）故郷を愛し、再生に向けて頑張る地元の人たちと、いわゆる「きたりっぽ」（よそから来た人間）との協働が、どう発展するのかにも、福島の未来はかかっている。